

子どもの健やかな成長を祈り 思いを込めて作られたつるし雛



4月3日にひな祭り

全国的にひな祭りは3月3日に行われますが、市内では4月3日にひな祭りや七夕、お盆などを月遅れで行う家庭もあります。これは明治6年に旧暦から新暦への切り替わった際、暦が全て1カ月早くなったことに起因しているといわれています。農家にとって年中行事が1カ月ずれると収穫などの忙しい時期と重なるため、実際には旧暦のまま1カ月ずれて実施しているそうです。桃の節句といいますが桃の花が咲く4月にお祝いであげたいですね。

ひな祭りの歴史

女の子の幸せと健康を祝う桃の節句「ひな祭り」ですが、もともとひな祭りは子どものための節句ではなかったようです。自分に降りかかる災いなどを「ひとがた」に託し川に流す厄払い的な行事と「ひいな遊び」という人形遊びが結びつき「ひな祭り」となったといわれています。

現在のように人形を飾るようになったのは室町時代の末期からで、まだこの頃は位の高い人だけの祭事でした。

親心からできたつるし雛

江戸時代中期には、現在のようになひな壇が飾られるようになったといわれています。しかし、ひな人形は高価で庶民には手が届かないものでした。

それでも「子どもや孫の初節句を手作りで祝いたい」という親心から生まれたのが、つるし雛だといわれています。当時は着物のはぎれなどで作った小さな人形やお飾りを、竹ひごの輪から赤い糸でつるして娘の初節句を祝いました。

現在まで伝えられてきたこのつるし雛は、親の温かい思いが込められた日本の伝統手芸といえるでしょう。

今回は簡単に作る事ができるつるし雛を紹介します。親子で一緒に作ってみてください。

